

音楽学部のカリキュラム再編について

松浦 修

1. 沿革

神戸女学院は 1875 年（明治 8 年）の創立以来、日本における高等教育の先駆者として多くの分野で貢献してきた。特に 1906 年に私立学校として初めて音楽科を設けたことにより、日本の音楽教育の発展に多大な影響を与えてきた。その後、1949 年の新制音楽学科設置、1952 年の音楽学部認可、2006 年の舞踊専攻設置、2007 年には作曲専攻をミュージッククリエーション専攻へ発展的に改組するなど、時代の変化に応じて教育内容を進化させてきた。

2024 年 4 月から、音楽学部音楽学科は従来の器楽専攻、声楽専攻、ミュージッククリエーション専攻を再編により「音楽表現専攻」へ改組し、音楽教育、音楽ビジネス、生涯教育を専門分野とする「音楽キャリアデザイン専攻」を新たに開設した。これにより、音楽学部音楽学科は二専攻体制となり、新たなステージへと踏み出した。

2. 再編に至った経緯

音楽学科は長年にわたり、少人数教育とリベラルアーツ教育を通じて、専門技術と高い芸術的感性を備えた音楽家を育成してきた。その一方で、近年の少子化や社会環境の変化により、大学全体の志願者数が減少傾向にあり、特に音楽学科においては、定員の充足率が低下傾向にあり、安定的な学生数の確保が課題となっていた。

このような状況を受け、音楽学科では伝統を守りつつも、時代に適応した教育改革を検討した。音楽学科がこれまで築いてきた特色ある教育、すなわち少

人数教育やマンツーマン指導を通じた高度な専門技術の育成、高い芸術的感性を養う教育、そして品位の高い人格形成を目指すきめ細やかな指導を土台としつつ、より広範な学生層に対応する体制を模索した。

その結果、2024 年度から以下の 2 専攻体制への改組が決定した。

1. 音楽表現専攻 — 従来の器楽専攻、声楽専攻、ミュージッククリエイション専攻で培ってきた演奏教育を統合し、音楽表現の実践と追求を通じて音楽家・音楽教育者として活躍できる人材を育成する。

2. 音楽キャリアデザイン専攻 — 音楽教育、音楽ビジネス、生涯教育などの分野を対象とし、人や社会に貢献する即戦力となる人材を育成する。

この二専攻体制により、従来の実技教育の枠を超え、応用的な分野でも活躍できる多様な人材を輩出することを目指した。この改革案は学内外での議論を経て理事会に上程され、2024 年 4 月からの改組が正式に決定した。

3. 舞踊専攻の募集停止

舞踊専攻は 2006 年の開設以来、島崎 徹教授を中心に高い教育水準を維持し、定員 8 名に対し、多くの志願者を集め続けてきた。しかし、島崎教授の定年退職が近づく中で、舞踊専攻の今後についての議論が行われた。後任教員の採用により舞踊専攻の継続を望む声が多い一方で、島崎教授から音楽学科の専任教員数の削減方針や予算削減の制約が厳しい中、これまでの舞踊教育の質を維持しながら発展的に継承することは厳しいとの意見が示され、新たな専攻に注力する必要があるとの結論に至り、舞踊専攻は 2024 年度入学生から募集を停止することが決定された。

4. 学費の改訂

2024 年度入学生から「音楽表現専攻」と「音楽キャリアデザイン専攻」の 2 専攻による教育体制への移行に伴い、2024 年度入学生から、以下の通り学費を改訂した。

音楽表現専攻：1,694,000 円（授業料 1,151,000 円、教育充実費 543,000 円）

音楽キャリアデザイン専攻：1,400,000 円（授業料 1,050,000 円、教育充実費 350,000 円）

音楽学部音楽学科の 2023 年度入学生までの学費は 2,014,000 円（授業料 1,371,000 円、教育充実費 643,000 円）であったことから、年額で 320,000 円の学納金の値下げを行い、より学びやすい学費を実現した。学費改訂に伴い、副科実技の個人レッスンを履修できる科目数は 4 年間 8 科目から 1 年間 2 科目へと引き下げられた。一方で、卒業要件外科目として追加で実験実習費を支払うことで、副科実技の個人レッスンを学生のニーズに応じて自由に履修選択できるようになった。

5. 音楽表現専攻の概要

「音楽表現専攻」は、これまでの器楽、声楽、ミュージッククリエーション専攻で培ってきた演奏教育を基盤に、音楽家や音楽教育者として社会で活躍できる人材の育成を目指す。専修領域として「器楽専修」「声楽専修」「ミュージッククリエーション専修」を設け、演奏、歌唱、創作など幅広い音楽表現を追求する教育を提供する。器楽専修はピアノ、チェンバロ、オルガン、弦楽器、管楽器、打楽器、ハーブを楽器種とする。個人のレベルに合わせた週 1 回、45 分の質の高いレッスンが提供される他、専門実技の成績優秀者はマンツーマンレッスンを週 2 回受けられる特別プログラム(Artistic Performance Program)を 2024 年 4 月から新設した。これにより、これまで培ってきた実技教育を充実化するとともに、音楽表現の実践と追求を通して、音楽家・音楽教育者として活躍できる人格を備えた人材の育成を目指す。

6. 音楽キャリアデザイン専攻の概要

「音楽キャリアデザイン専攻」は、音楽教育、音楽ビジネス、生涯教育の 3 分野を軸に、応用音楽分野において人や社会に貢献する人材を育成することを目的とする。音楽の社会的価値を探究し、少人数制の 4 年間のゼミを通じてキャリアをデザインする。アクティブラーニングや少人数制ゼミ、PBL（課題解決型

学習)等の先端の教育方法を通じて、学生がキャリアを主体的に学び成長できる教育体制を整えた。さらに、週 1 回 22.5 分のマンツーマンレッスンにより、実技教育にも柔軟に対応した。卒業生は地域や企業、教育現場、生涯教育の場で即戦力として活躍が期待される。

7. 新カリキュラムの特徴

専攻の再編に伴い、より専門性を高くキャリアにつながる教育体制を掲げ、カリキュラムを大きく変更した。主な特徴は以下の通り。

- (1) 音楽キャリアプログラム 新たに設けたキャリア教育プログラムでは、「ミュージックコミュニケーション講座」「テクニカルライティング」「キャリアコーチング」「音楽文化論」「音楽心理学」「セルフブランディング」「音楽と社会」などの 7 科目を通じて、音楽を社会で活用する専門性を育てる。また「リトミック」「吹奏楽指導」「音楽教員」「舞台芸術制作」「ピアノ指導」「ミュージックマネジメント」「音楽療法」「生涯学習リーダー」「合唱指導」「ピアノ伴奏」など 10 の分野別コースにより、多様なキャリア選択を支援する。
- (2) Artistic Performance Program 専門実技の優秀者には、マンツーマンレッスンを週 2 回受講できる特別プログラムを提供する。
- (3) 地域・企業と連携した学び 2024 年 3 月に兵庫県と締結した包括連携協定に基づき、地域の芸術文化活動に貢献する人材育成を目指したプログラムを展開する。
- (4) PBL (課題解決型演習) 地域企業や自治体と協力し、社会課題の解決策を検討・実践する PBL 形式の授業を行う。
- (5) イベント企画制作 イベントの企画や制作を通じて、実践的なスキルを養う。

再編の意義

再編により、音楽学部が日本最古の音楽教育機関として培ってきた伝統を土台に、社会の変化に適応した新しい教育体制を目指した。音楽表現専攻では演奏教育の深化を図り、音楽キャリアデザイン専攻では社会貢献を重視した教育を展開する。これにより、より多様な人材育成が可能となり、音楽を通じた社会貢献が一層進むことが期待される。音楽学部音楽学科はさらなる発展と多様性を実現し、未来の音楽家および音楽文化を担う人材を育成する役割を果たしていく。

(音楽学部音楽学科准教授)